

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

●「森林環境譲与税に係る勉強会」を開催しました

森林整備や木材利用を進め、土砂災害の防止や水源涵養機能など森林の公益的機能の維持増進を図るため、その安定的な財源として令和元年度から県及び市町村へ森林環境譲与税が譲与されています。

森林環境譲与税の用途は、①間伐等の森林整備、②人材の育成・担い手の確保、③木材利用・普及啓発で県及び市町村は創意工夫しながら活用を進めているところです。

こうした中、当制度に対する会員の理解の向上を図り、地域の森林・林業・木材産業の課題解決に向けて行政とともに行動できるよう、令和5年2月20日（月）に岐阜県庁で「森林環境譲与税に係る勉強会」を開催したところ、会員15人が参加しました。

勉強会の講師を務めた岐阜県森林活用推進課森林吸収源対策室の川畑技術課長補佐から、以下のような状況報告がありました。

- ・全国に譲与された森林環境譲与税のうち、約半分は活用されていない（基金に積み立てられたまま）であるが、岐阜県は活用率が高い。
- ・令和6年度から新たに森林環境税の徴収が始まることから、森林環境譲与税を納税者にご理解いただけるよう活用していく必要があること。
- ・地域によって課題は様々であり、課題解決に向け市町村と地域が知恵を出し合い、自由な発想でより効果的に活用していただきたいこと。



山田委員長あいさつ



川畑技術課長補佐による講義

<県内市町村における森林環境譲与税の主な活用事例>

- ①安八町：新生児、新婚者に対する県産材を活用した記念品（木製スプーン・フォトフレーム）の配布。
- ②垂井町：防災減災機能の向上に向け、治山堰堤周辺森林の間伐を推進。
- ③関市：地域林政アドバイザーを活用し、市の森林整備方針を策定。
- ④東白川村：森林づくりの在り方を再確認するため、「東白川村森林づくりフォーラム」「東白川村森林未来会議」の開催。

出席者からは、造林未済地の解消や森林サービス産業の取組みへの活用検討など様々な意見・提案が出されるなど、関心の高さが伺えました。こうしたことから、森林環境譲与税の効果的な活用に向け、令和5年度も引き続き勉強会を開催していきたいので、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

▼裏面へ続く

●コウヨウザンの活用に関する試験・研究に取り組んでいます(その2)

かわら版41号(令和4年11月4日付)でコウヨウザンの活用に関する試験・研究に取り組んでいることを紹介したところです。今回はその後に確認できたことなどを紹介いたします。

<コウヨウザンの枝葉の成分分析>

飛騨産業(株)において、コウヨウザンの枝葉から芳香蒸留水及び精油成分を抽出(100℃、130℃、150℃)したところ、以下のことを確認しました。

- ・コウヨウザンの成分はマツに近いこと(スギ、ヒノキとは異なる)。
- ・特筆すべき成分は確認されなかったが、採取時期により結果が異なる可能性があること。

<コウヨウザンの強度>

森林研究所において、コウヨウザン丸太のヤング係数を測定したところ7.1~8.1KN/mm²で、ヒノキ丸太(概ね9~13KN/mm²)より低いものの、スギ丸太(概ね6~9KN/mm²)と同程度あることを確認しました。

<テーブルの製作>

製材・乾燥させたコウヨウザンは、生活技術研究所において家具製造時の含水率8%まで調整し、耐水性のある接着剤で巾継ぎしたのち、市販のテーブルサイズの天板を作成しました。

コウヨウザンはスギ材と同じくらい表面が柔らかいことから、表面硬度の向上のためカップリング加工を施したのち、脚部を取り付け完成しました。

表面には「休眠芽」や「潜伏芽」の切断面が確認されますが、全体的に淡黄色で風合い良く仕上がりました。今回製作したテーブルについては、令和5年度通常総会などで皆様に披露する予定です。



コウヨウザンの枝葉



含水率調整(生活技術研究所環境試験室)



製作したテーブル



テーブルの表面

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局(岐阜県立森林文化アカデミー内)
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.conso@forest.ac.jp